

6月定例議会から

平成16年第5回定例村議会は、6月18日から25日までの日程で行われました。

一般質問は22日に行われ、6人の議員が村政の重要な課題等について村側の考えをたてました。

議案審議は25日に行

われ、提出された議案については慎重な審議の結果、原案どおり可決されました。

今議会に提出された議案の概要は以下のとおりです。(紙面の都合で、内容は省略されています)



▲ 6月議会の様子

のしおり印刷製本費47万7千円、水質検査料27万3千円です。

平成16年度 老人保健特別会計補正予算

既定予算の総額に2、537万8千円を追加、歳入歳出予算の総額を9億727万円としました。

歳出の内容は、前年度精算償還金1、875万4千円、一般会計繰出金662万4千円の追加です。

平成16年度 介護保険特別会計補正予算

既定予算の総額に1、051万6千円を追加、歳入歳出予算の総額を4億2、386万3千円としました。

歳出の内容は、介護給付費準備基金への積立金1、051万6千円の追加です。

国民健康保険税条例の一部を改正する条例

国民健康保険税、及び介護納付金課税額の税率等の改正です。

平成16年度一般被保険者の一人当たり保険税を、前年比4、525円減の5万2、397円、介護納付金を前年比1、898円減の1万6、792円としました。

原町方部介護認定審査会共同設置規約の一部を改正する規約

国の介護認定審査会運営要綱が改正されたことに伴い、原町方部介護認定審査会の審査業務の効率化と共同設置に係る事務費の軽減のため、介護認定審査会の委員を、更新認定申請のみ、現在の5人から3人の委員の出席でも審査認定ができ

平成16年度 一般会計補正予算

既定予算の総額に4、144万1千円を追加、歳入歳出予算の総額を43億5、104万1千円としました。

歳出の主な内容は、総務費・さわやか基金積立250万円、財務会計端末機購入費268万8千円、税過誤納還付金300万円、民生費・老人保健特別会計繰出金1、875万4千円、農林水産業費・堆肥舎等施設整備事業補助金1、050万

円、葉タバコ振興対策事業補助金107万1千円、商工費・句集印刷製本代301万4千円、総合案内看板設置工事328万6千円、健康増進交流施設用備品505万円、教育費・安全安心学校給食推進事業103万4千円です。

平成16年度 国保特別会計補正予算

事業勘定の既定予算の総額から522万5千円を減額し、歳入歳出予算の総額を7億9、177

るよう、原町方部介護認定審査会共同設置規約の一部を改正するものです。

第5次総合振興計画の基本構想について

飯館村第4次総合振興計画が、平成16年度で計画期間が終了することに伴い、平成17年度を初年度とする飯館村第5次総合振興計画を策定するもので、その基本構想について、地方自治法第2条第4項の規定に基づき、議会の議決を求めるものです。

平成16年度大火比曽線道路改良工事請負契約について

6月11日、6社による指名競争入札の結果、神尾建設株式会社飯館支店が落札しましたので、その請負契約について議決を求めるものです。契約

金額は7、140万円で

専決処分の承認

平成15年度 一般会計補正予算

平成15年度過疎対策事業債、飯樋小改築事業債の額が確定したことに伴う補正措置で、減債基金に200万円を積み立て、一般会計歳入歳出の総額は43億1、703万2千円としました。

税条例の一部を改正する条例

地方税法等の改正に伴い、関係する村税条例の一部を改正するもので、改正の主な内容は、個人住民税の均等割、非課税基準等を改正するものです。個人住民税均等割の

国民健康保険税条例の一部を改正する条例

改正では、市町村の人口段階別の税率区分が廃止され、税率が3、000円に統一されたため、現行2、000円からの税率改正です。

地方税法等の改正に伴い、飯館村国民健康保険税条例の一部を改正するものです。改正の主な内容は、地方税法の改正により、飯館村国民健康保険税条例に係る語句並びに条文等の整備を行うものです。

平成15年度 一般会計繰越明許費繰越計算書

平成15年度一般会計予算のうち、繰越明許費として平成16年度に繰越した予算は、土木費・若者定住促進住宅建設事業

7、000万6千円、教育費・飯樋小学校北・西校舎大規模改造事業2億16万4千円です。

平成15年度 一般会計事故繰越し繰越し計算書

平成15年度一般会計予

村長村政報告(紙面の都合で、内容は省略してあります)

市町村合併

現在「地域自治組織」、「新市建設計画」、「新市名称等」のそれぞれ3部門の小委員会での協議、また、職員による4市町村の事務事業調整が精力的に行われています。

3つの小委員会における、現在までの主な項目の協議経過について報告します。

「地域自治組織小委員会」
地域自治区

・旧市町村単位に設ける
・設置期間は定めない、ただし、10年を1つの目安として見直すこと
もある

・事務所は、本庁は原町市役所に、地域自治区の事務所(区役所)は、現在の4市町村の市役所・役場とする

・地域自治体の長については、特別職を置き、任期は2年とし再任は妨げない

地域協議会

・旧市町村単位に置く

・委員については、地域自治体の区域内から市長が選任する

・委員の任期は2年とし再任を妨げない

など、地域自治組織の基本的な項目について検討が重ねられており、7月下旬には決定される見込みとなっています。ただ、協議過程の中で、自治体の区長が地方自治法ではなく合併特例法の特別職であること

等、協議の途中ではあるものの今後、懸念される課題も少なくありません。本村にとって「地域自治組織の確立」が合併の最重要課題であり、これらの課題に対し、真の地域分



▲5月に飯館村で行われた第5回合併協議会

権・分散型としての地域自治組織の構築に向け、さらに協議を重ねて参りたいと考えています。

「新市建設計画小委員会」

新市一体のためのハード事業、ソフト事業及び地域自治体におけるハード事業、ソフト事業については、4市町村から事業をとりまとめこれから調整することとしています。

「新市名称等に関する小委員会」

新市の名称募集要領、新市の名称選定基準が合併協議会で決定し、現在、新市の名称を公募中です。特に公募にあたっては、

「新市にふさわしい新たな名称」とし、旧市町村名は原則使用しないこととしています。

3つの小委員会における現状を述べましたが、協議はこれから重要事項が本格化してきます。村にとつて「合併して良かった」といわれるような合併に向けて努力して参りますので、議員をはじめ村民の皆様のご理解をお願いします。

この計画は「まदैらイフ」を基本理念とし、行政と村民が協働して、安心して暮らすことのできる村づくりを目指すものです。今回の計画の特徴としては、第4次総の「地区別計画」に代わり、行政区がそれぞれ主体的

村表彰式

5月11日、平成16年度飯館村表彰式典を公民館において行い、村政進展と民生の安定のためにご尽力いただいた方々8人

を表彰しました。あらためて、その功績をたたえ感謝を申し上げますと共に、今後尚一層のご活躍をこ期待申し上げるものです。



▲村表彰式のようす

第5次総合振興計画

この計画は「まदैらイフ」を基本理念とし、行政と村民が協働して、安心して暮らすことのできる村づくりを目指すものです。今回の計画の特徴としては、第4次総の「地区別計画」に代わり、行政区がそれぞれ主体的



▲策定された計画書

に取組む「やる気つながりプラン」及び「地域くらしあつぷプラン」を推進すること、基本計画書の具体的な施策欄に、従来にはなかった「運営主体」並びに「目標値」を掲げたことなどです。なお、各事業の実施にあたっては、第5次総合計画策定の専門部会のメンバーによる「まदैらイフプロジェクト推進委員会」を設け、委員自らがそれぞれの専門部会のメイン事業について、企画立案し、事業推進を図ることとしました。さらには、「まदैらイフ評価推進委員会」を設置し、事業の効果的・効率的な推進と評価を行うこととしています。

第22回いいたて夏まつり「まदैらイフ・Finあいの沢」

今年は、夏まつりのタイトルを「スローライフ・いいたて」から、第5次総策定に伴ない「まदैらイフ・Finあいの沢」に変え、7月31日に開催予定です。



▲昨年の夏まつりのようす

ニュートラック いいたて

平成15年度の実績は、まず、売得金については14億730万6、900円で前年度に比べ1億

農業

昨年同様、春先から雨の少ない状態が続き、水不足による農作物の作付け等への影響が懸念されましたが、その後の天候の回復により、大きな影響はありませんでした。

5月の連休前後に連続して霜注意報が発令され、7回程の降霜がありました。移植直後のプロ

ツコリーの一部に被害が発生し、植え直しをした圃場もありましたが、葉タバコ、加工トマト等については、定植の初期であつたため大きな影響もなく、生育は順調に進んでいるものと思われま

水田対策

今年からスタートした「米政策改革」のもとで、新たな「地域水田農業ビジョン」が策定されました。このビジョンに基づき、現在、各農家から「米の生産目標数量」等の営農計画の提出を受け、調整・集計作業中です。現在の集計では、米の作付け面積は786㌔で昨年より24㌔多い作付け見込みです。

新山村振興等農林漁業特別対策事業

平成14年、15年の2カ年で「あいの沢」に研修施設及び自然観察公園の整備が完了し、多くの方に利用されています。今年、JAそうまの集出荷場の建設が実施されますが、本年より2カ年の継続事業となり、17年中の完成を予定しています。

緑のふるさと協力隊

今年4月よりNPO地球緑化センターから「緑のふるさと協力隊」というボランティアの派遣を受け、村に滞在しています。1年間の予定で村内農家での農作業体験や各種イベント・事業等のお手伝いをして頂くことになっています。

イチゴハウス

昨年、輸入急増農産物対応特別対策事業により二枚橋に建設された、低

畜産関係

全国的に子牛・枝肉相場が高騰しています。平成15年度のJA全農の県家畜市場子牛取引価格を見ると、子牛セリ価格は県全体で、取引頭数6、378頭、1頭平均価格は43万4、416円と、県家畜市場始まって以来の高値取引となっています。村内子牛では去勢405頭で1頭平均価格は48万5、253円、雌325頭で、39万942円、合計730頭で44万3、265円となっています。

堆肥舎整備

家畜排泄物法の猶予期限が今年の10月末までとなってきました。まだ未整備の畜産農家が44戸残っています。意向を聞き取りした結果、期限内に、国・県の補助事業での整備が3戸、村のさわやか基金での補助の利用希望者が31戸、自己資金での整備が9戸、規模を縮小する農家が1戸です。

振興公社

5月31日に理事会が開催され、平成15年度決算の報告がされました。

肥育事業については、依然としてBSEの影響により品不足が続いており、高値取引きとなっており、出荷牛の枝肉販売価格が、1頭あたり92万1,822円と今までにない高値取引きされています。この高値傾向が

いつまで続くか心配しているところですが、今期の収支を見ますと581万2千円の黒字決算となっています。

受精卵移植事業ですが、採卵については、73回と前年度より大幅に上まっています。移植については215頭と前年度より12頭減少しており、受胎率も51・7%となっています。

「ほんの森」の運営ですが、前年度比較2%の売上減少となっています。これは、一人あたりの客単価はあまり変わらないものの、客数が年々減少しているためです。

飯館楽園(株)

第12期の経営状況は、当期純利益が327万9千円の黒字決算となりました。これは、「きこり」の交流施設として整備した新館の利用が可能となったことに伴い、100

人規模の団体利用が増えたことが、好結果に結びついたものと思います。

ただ、ステーキハウスは平成14年度に比べると売上が若干上回ったものの、来客人数は低迷しており、また、原材料の仕入れが相変わらず高止まりにあり、ステーキハウス単独では赤字となっています。納品関係者との仕入れ価格の交渉をはじめ、現場にも一層の経営努力をお願いしているところです。

愛の句碑づくり事業

福島県地域づくりサポート事業の助成を受けて3年間継続して取り組んで参りましたが、平成15年度で最終年度になりました。去る6月6日、愛の俳句の選者である黛まどかさんを囲んで「愛の園遊会」を開催しました。今回も、遠くは福島県・

高知県をはじめ、全国から33人の入選者と同伴者42人も参加していただきました。3年間で8,842句もの応募がありました。愛の俳句の出会いを大切にしながら、今後とも交流人口の拡大につながることを期待しているところです。



▲今回設置された句碑

福祉

介護予防事業のいきいきヘルスクラブ事業、いわゆるミニデイサービス事業については、今年度、八木沢・芦原地区と白石地区の事業をそれぞれ立

ち上げています。草野小学校の一部を改修して、放課後児童健全育成施設に転用する「子育て支援拠点施設整備事業」については、5月24日付で国庫補助金の内示がありました。国庫補助金の内示額は2,800万円です。

成人病健診の受診結果

5月24日から6月4日まで、いちばん館において成人病健診を行いました。基本健診は2,132人が受診しています。前年対比で、基本健診は一般・企業併せて9人の減、胃がん検診は44人の減、結核検診で51人の増、大腸がん検診は50人の増、C型肝炎検診では5人の増で、ほぼ前年並みの受診者数でした。また、今年新たに追加した喀痰検診は46人の受診がありました。

ごみ収集の状況

平成15年度の収集状況は、可燃ごみは329・6tで、前年度より96・8tの増、不燃ごみは138・9tで、前年度より54・2tの増となっています。また、リサイクル品では、ペットボトルが約84%増、紙類が約27%増、缶類とビン類は前年度とほぼ同様となっており、全体で342・7t回収しています。さらに、容器リサイクル法に基づく「プラスチック製容器包装」の分別回収は、現在7地区で実施しています。

農道・林道の整備

かねてより、県営事業として事業採択を要望してきました「県営ふるさと農道緊急整備事業（芦原地区）」と、「県営ふるさと林道緊急整備事業（堤入線）」については、今年度事業採択になりました。事業期間は平成19年度までの4カ年間で、村の工事負担金なしで実施されます。農道・芦原地区については、延長約600mで、総事業費約1億6千万円、林道「堤入線」については、延長約4,200mで、総事業費約6億円です。また、県営林道開設事業として施工してきました、林道「栃窪大倉線」についても、平成16年度以降の残工事が、延長で約1,900m、工事費で約4億円となっていますが、今年度より、県代行事業で実施されることに決定されました。

教育

飯樋小学校では、4月から新しい校舎で授業がスタートし、子供たちの歓声が校舎内外に響きわたっています。また、北・西校舎の改修工事は、10月の竣工を目標に順調に工事が進んでいます。



▲3月に完成した飯樋小学校南校舎

5月23日、村内3小学校の運動会が行われました。なかでも白石小学校においては、学区内の4行政区との合同運動会として開催され、児童と地区住民との交流が一層図られました。



▲合宿通学でのサマンサ先生によるゲーム

親のありがたみが分かる合宿通学は、5月30日から7泊8日の日程で、各小学校毎に3回に分けて開催しています。

各学校25名程度の参加者があり、集団生活を通して自制心や協調性、更には親や家族への感謝の気持ちが養われるよう実施しています。

社会教育

恒例になりました村スポーツ少年団主催の「第14回スポーツ少年団対抗はやま湖駅伝競走全国大会」を4月29日、大倉地区はやま湖周辺を会場に

実施しました。参加チームは、男女合わせて24チームで、3つの区間新記録が出るなど白熱した大会となりました。



▲村内チームの健闘が光った今年のはやま湖駅伝

第42回村民球技大会を6月13日に実施しました。ソフトボール、インディアナ、ゲートボール、グラウンドゴルフの4種目が行われ、各試合とも熱戦が繰り広げられました。目的である健康増進・体力向上はもとより、地域での親睦が図かれた大会になりました。



▲ゴミダイエットマスター講習会のような